

気象情報と避難行動

大雨のときのとるべき行動

災害の危険性が高まり、避難の必要がある場合には避難情報が発表されます。なお、**身の危険を感じたときは、これらの避難情報にとらわれず、迷わず避難を始めましょう。**

警 戒 レベル	小樽市からの避難情報	気象情報	とるべき行動
5	緊急安全確保	大雨特別警報 氾濫発生情報	直ちに身の安全を確保
~~~~~ 警戒レベル4 までに必ず避難！ ~~~~~			
4	避難指示	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	大雨警報・洪水警報 氾濫警戒情報	危険な場所から 高齢者等は避難
2		大雨注意報・洪水注意報 氾濫注意情報	避難先などを確認
1		早期注意情報	最新情報に注意

## 津波発生の際のとるべき行動

津波による災害のおそれがあるときは、地震発生後約3分を目標に5段階で津波情報が発表されます。ただし、地震の規模（マグニチュード）が8を超えるような**巨大地震の場合は、津波の高さを「巨大」・「高い」という言葉で表して、非常事態であることを伝えます。**

津波情報	発表される津波の高さ		とるべき行動
	数値での発表	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	10m超（10m＜予想高さ）	巨大	すぐに避難する  沿岸部や川沿いにいる人は、直ちに高台や高い安全な場所へ避難する
	10m（5m＜予想高さ≤10m）		
	5m（3m＜予想高さ≤5m）		
津波警報	3m（1m＜予想高さ≤3m）	高い	
津波注意報	1m（0.2m≤予想高さ≤1m）		海岸から離れる

## 地震・津波災害

## 地震への備えと津波から命を守る避難行動

地震が起きたときは、まず自分の命を守ること、そしてケガなどをしないことが大切です。ケガをしてしまうと、避難行動や地域が協力して行う救護活動などが速やかに行えなくなってしまいます。また、地震発生時のケガの多くは、家具の転倒などによるものなので、家の中のものが飛んだり倒れたりしないように配置や固定方法を工夫して、家の中の安全性を高めておくことが大切です。

なお、津波から命を守るためのポイントを覚えておいて、いざというときに素早い避難などの適切な行動をとれるようにしましょう。

まず避難！	「遠く」より「高く」へ避難！	なるべく歩いて避難！	警報解除まで避難！	河川などから離れる！
大きな揺れ、長い揺れを感じたら、すぐに避難しましょう。	海岸から遠くに避難するよりも、可能な限り「より高い場所」へ避難するようにしましょう。	渋滞や通行止めにより避難が遅れる可能性があります。なるべく歩いて避難しましょう。	津波は繰り返し襲ってきます。注意報・警報が解除されるまで避難を続けましょう。	津波は河川などをさかのぼり、思わぬ場所から襲ってくるので注意しましょう。

## 地震がおきてから予想される津波の影響

図1は、小樽市への影響が最も大きい、3つの波源域（震源域）を示したものです。防災マップには、波源域で地震が発生した場合の各地点で想定される最大遡上高などを記載しています。

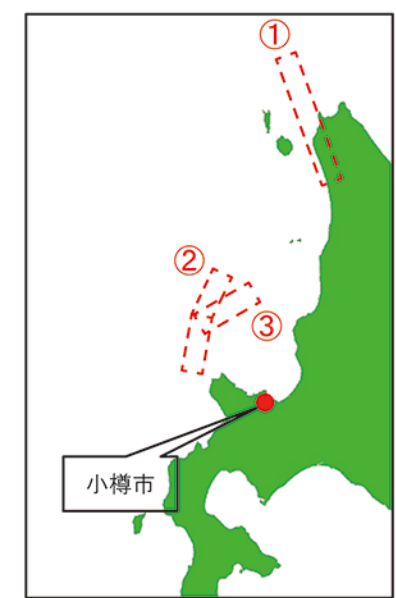


図1 想定津波波源域

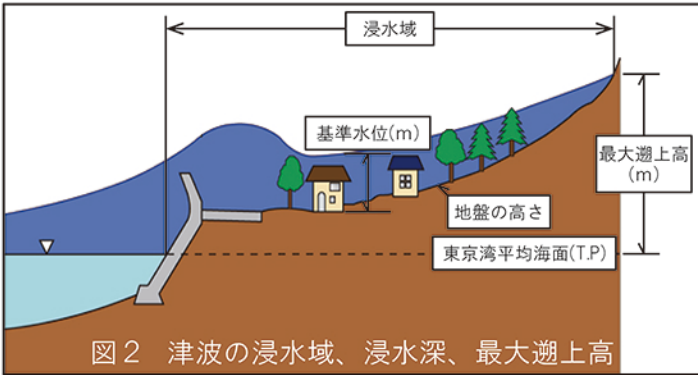


図2 津波の浸水域、浸水深、最大遡上高

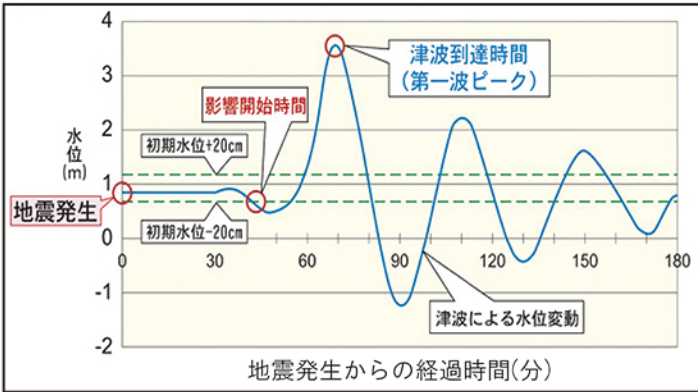


図3 津波影響開始時間と第一波ピーク到達時間

## 情報の入手方法

災害時には、不正な情報（デマ）が広がる可能性があります。誤った情報に惑わされないように、次の方法で正確な情報を入手しましょう。

小樽市ホームページ	
小樽市HPでは、防災マップを公表しています。また、緊急情報も確認できます。緊急情報は、随時、公式X、Facebook、LINEでも確認できます。	
小樽市防災行政無線（沿岸地域）	
津波警報、避難情報などの災害情報を放送します。聞き取りにくかった場合は、☎27-1199（自動応答）で放送内容を確認できます。	

登録制メール	
事前登録された方へ防災行政無線の放送など緊急性の高い災害関連情報をメールで配信します。	

F Mおたる76.3MHz	
大きな災害が発生したときは、市が直接FMおたるの放送で、災害関連情報を放送します。	

Yahoo!防災速報	
災害発生のおそれ又は災害発生時に、避難指示・避難所開設などの災害関連情報を配信するサービスです。	

災害用伝言ダイヤル	
災害時には電話がつながりにくくなることがあります。安否確認には災害用伝言ダイヤル「171」や災害用伝言板「web171」を活用しましょう。	

# 一時避難場所・指定緊急避難場所・指定避難所

## 住んでいる地域の災害リスクを知る

防災マップで自宅が色の付いているハザードエリア（洪水浸水想定区域、津波災害警戒区域、土砂災害警戒区域等）の「内側か?」「外側か?」を確認しましょう。また避難する場所も確認し、災害に備えましょう。

- ハザードエリア内側　～　各種の災害が起きやすいので災害に備えましょう。
- ハザードエリア外側　～　想定以上の自然現象や複数の原因により災害が起きる可能性がありますので、注意が必要です。

## ハザードエリアを確認する

詳細のハザードエリアについては、北海道のwebサイトより確認してください。

洪水浸水想定区域	津波災害警戒区域	土砂災害警戒区域等
河川別の洪水浸水想定区域を確認できます。	津波災害警戒区域の指定の公示に係る図書を確認できます。	土砂災害警戒区域等のほかに、土砂災害警戒情報、土砂災害危険度情報などを確認できます。

※ハザードエリアは、追加や変更されることがあるので、最新情報を確認してください。

## 避難所以外の避難先

避難所だけが避難先ではありません。避難所が過密状態にならないため、安全を確認したうえで次のような避難先に分散して避難することも大切です。

「親戚・知人宅」	「ホテルなどの宿泊施設」	「自宅の安全な場所」
----------	--------------	------------

## 非常持出品

<input type="checkbox"/> 携行食	<input type="checkbox"/> 軍手・手袋	<input type="checkbox"/> 薬・お薬手帳	<input type="checkbox"/> マイナ保険証など	<input type="checkbox"/> 生理用品
<input type="checkbox"/> 飲料水・水筒	<input type="checkbox"/> 運動靴	<input type="checkbox"/> ばんそうこう	<input type="checkbox"/> 運転免許証	<input type="checkbox"/> ビニール袋
<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> 警笛	<input type="checkbox"/> マスク	<input type="checkbox"/> 携帯電話・充電器	<input type="checkbox"/> 家族の写真（はぐれたときのため）
<input type="checkbox"/> 電池式ラジオ	<input type="checkbox"/> 下着・上着・着替え	<input type="checkbox"/> アルコール消毒液	<input type="checkbox"/> 眼鏡・補聴器	<input type="checkbox"/> その他、自分の生活に欠かせないもの
<input type="checkbox"/> 乾電池	<input type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/> 体温計	<input type="checkbox"/> ライター	
<input type="checkbox"/> ヘルメット・帽子	<input type="checkbox"/> 雨具・防寒具	<input type="checkbox"/> 現金	<input type="checkbox"/> ティッシュ	

## 水害・土砂災害

## 水害への備え

大雨による災害は、地震による災害など異なり、多くの場合は事前に対策をとる時間があります。台風の接近など、大雨が予想されるときは、次のことに注意し、早めの対策をとることが被害を最小限に抑えることにつながります。

最新の天気予報や気象情報に注意！	避難先・避難経路を確認する！	不要な外出はしない！	危険を感じたら早めに避難！
------------------	----------------	------------	---------------

## 水害のときに注意すること

危険箇所に注意！	歩ける深さに注意！	足元に注意！	車での避難に注意！	一人での避難に注意！	避難が困難なときは垂直避難！
アンダーパス、川沿、土砂災害の発生しやすいところはなるべく避けましょう。	歩行可能な水深の目安は、膝の下くらいなので、浸水が始まる前には避難しましょう。	傘などを杖代わりにし、蓋が開いたマンホールなど水中の危険を確かめながら避難しましょう。	水深が深くなるとエンジンが停止する可能性があります。なるべく歩いて避難しましょう。	様々な事態が想定されますので、なるべく複数人で避難しましょう。	暗くなったなど避難が困難な場合は、避難所への移動（水平避難）だけではなく、自宅2階や近くの頑丈な建物の上の階への移動（垂直避難）も考えましょう。さらに土砂災害の危険がある場合は、山や崖面の反対側に移動しましょう。

## 土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域

土砂災害は、発生のしくみや土砂の動きから、3つに分類されます。	<b>急傾斜地の崩壊</b>  ※傾斜度が30°以上である土地が崩壊する自然現象     <b>土石流</b>  ※山腹が崩壊して生じた土石等又は渓流の土石等が水と一体となって流下する自然現象     <b>地滑り</b>  ※土地の一部が地下水等に起因して滑る自然現象又はこれに伴って移動する自然現象
土砂災害が発生するおそれがあると認められた区域は、土砂災害防止法に基づき区域指定されます。	
■土砂災害警戒区域　～　住民の生命又は身体に危害が生じる恐れのある区域	
■土砂災害特別警戒区域　～　土砂災害警戒区域の内、建築物に危険が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域	

## それぞれの避難先の役割

避難する場所は、災害の状況に応じた利用目的により、次のように分類しています。

一時避難場所（町内会館など）	
----------------	--

大雨警報などの発表に伴い、災害の発生のおそれがある場合の自主避難先です。なお、町会との調整が必要なので、必ず開設されるものではありません。（※食料などの備えはありません。）

指定緊急避難場所（グラウンドなど）	
-------------------	--

災害の発生による危険が迫っているときに、緊急的に避難する場所です。なお、災害の種類によって避難する場所が異なります。（※食料などの備えはありません。）

指定避難所（学校など）	
-------------	--

災害により被害を受けた、または被害を受ける可能性がある人が、一定の期間、避難生活を送る場所です。災害の状況に応じて必要な施設を開設します。（※食料などの備えがあります。）